

現場実習報告会を終えて ～「はたらく」とは～

高等部3年生の最後の現場実習と1年生の校内実習が終わり、その報告会が行われました。実習前に立てた自分の目標に対して、自身の三週間の様子を振り返った自己評価や、今後どのようにしていくかなどについて、3年生が一人ずつ発表しました。発表の練習もかなりしたようで、声の大きさや相手に伝わるような話し方、視線の向け方など「さすが高等部3年生」と感じさせる報告会でした。

特別支援学校では、進路学習のテーマとして高等部1年生は「知る」2年生は「考える」3年生は「決める」という段階を示すことがありますが、本校では中高一貫教育推進の取組を進めており、高等部の先輩や自分自身を「見つめる」時期と考え、中学部3年生を「見つめる」として位置付けています。その中学部3年生も、先輩の発表の様子を静かに見つめていました。

私はよく、生徒に向けて「みんなは何のために働くの?」という質問をすることがあります。大半の生徒が「お金を得るため」「生活するため」「夢をかなえるため」など、こちらが予想した答えを返してくれます。確かにどの答えも間違いではないし、そのような答えを想定しているも事実です。しかし、いつも自分の心の中でしっくりこない気持ちがありました。「何故だろう?」……。そのモヤモヤした私の気持ちと、まとまらない考えを整理させてくれたのが一冊の本でした。

当時「中学二年生の息子に……」と思って手に取った一冊の本の中に、このような一節がありました。「いろいろな仕事の共通点は何だろうかという視点で世の中を見てみると『どんな仕事も誰かの役に立っている』『誰かにとって必要なもの、必要なことが社会の中で仕事として存在している』ということが分かります。私たちは一人で生きていくことができない。だから生きていくうえで必要な手助けが『仕事として存在している。そう考えると世の中ってとてもシンプルだと思いませんか?なぜ僕らは『はたらく』のか、その答えの一つは『助け合いでつくれるこの社会の一員になるため』です。社会の中で助けられるだけではなく、自分も自分ができることをして誰かの役に立つ、社会に貢献する、それが私たち一人ひとりのすべきことなのです。『自分なんか誰の役にも立てないのでは……』などと不安に思う必要はありません。しっかりと自分の将来を考えて生きていけば、必要とされる場所は誰だって必ず見つけられます。」

働いて対価を得ることは社会人にとって当然の営みです。だけど、それだけではないということ。周りの誰かに「あなたは私にとって必要なのだよ」と思われた時点で、その人は誰かの心の支えであり、その人の役に立っている存在であるはずです。その人のもっている力で周囲の人の心や体を支えたり「ありがとう」という気持ちを芽生えさせたりすることも「はたらく」ということになるのではないのでしょうか。人によって考え方は様々ですが、モヤモヤした自分の気持ちが「ストン!」と落ちた瞬間でした。

それ以来、私は「はたらく」というのは「自分のもっている力を生かして、誰かの役に立つこと。そして、その経験を通して、自分の存在を感じること」と考えるようになりました。